

2026年2月10日

各 位

会 社 名 株式会社 セ ッ ク
代表者名 代表取締役社長 櫻 井 伸 太 郎
(コード番号：3 7 4 1 東証プライム市場)
問合せ先 取締役管理本部長 杉 山 寿 顕
(TEL. 0 3 - 5 4 9 1 - 4 7 7 0)

宇宙戦略基金（第二期）「月面インフラ構築に資する要素技術」に採択されました

株式会社セック（代表取締役社長：櫻井伸太郎）は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）が公募する「宇宙戦略基金事業（第二期）」において、「技術開発テーマ／探査等（月面インフラ構築に資する要素技術）」に国立大学法人東京大学、学校法人立命館（立命館大学）などと共同で応募し、採択されました。

研究開発テーマ

「水・金属元素探査装置のフライトモデル開発と月面資源量の実測」

米国が主導するアルテミス計画をはじめ、各国が月面での持続的な活動拠点の構築を目指し、さまざまな探査計画を進めています。将来の持続的な月面活動に向けたインフラ構築において、最大の課題の一つは地球からの物資輸送に伴う高いコストです。この課題を解決するには、月面に存在する水や金属元素といった資源を現地で調達する技術の確立が不可欠です。本プロジェクトでは、月面資源として期待される元素の濃度と鉱物組成を月面その場で計測可能な観測装置の開発を行い、月面での資源探査技術実証と資源データの取得を目指します。観測装置は、広角分光カメラ、中性子・ガンマ線センサ、レーザー誘起プラズマ発光分光計、顕微分光カメラからなり、これらを組み合わせて、資源元素の発見、濃度・総量の評価、さらには「どの鉱物にどの元素が濃集しているか」といった存在形態の特定をも可能とする観測手法の実証を目指します。当社はこれらの観測装置のうち、広角分光カメラおよび顕微分光カメラの開発に参画します。

参加機関及び企業

代表機関： 国立大学法人東京大学
連携機関： 学校法人立命館、国立大学法人京都大学、株式会社トプコン、
株式会社ベクトロジー、ハイティラ株式会社、株式会社ランズビュー、
株式会社セック、学校法人加計学園岡山理科大学
協力機関： 国立大学法人岡山大学、理化学研究所、国立大学法人名古屋大学、
学校法人神奈川大学、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、株式会社 ispace、
株式会社大林組
参加機関： 有人宇宙システム株式会社
協力者所属機関： 学校法人聖マリアンナ医科大学

当社の役割

当社は本プロジェクトにおいて、立命館大学を中心とする開発チームの一員として広角分光カメラおよび顕微分光カメラの開発に参画し、システムインテグレーションや制御ソフトウェア開発を担当します。これまで科学衛星や月面ロボットなど、多くの宇宙機搭載ソフトウェアの開発に携わってきた経験を生かし、将来の月面開発に向けた技術開発に取り組みます。

(ご参考) JAXA 宇宙戦略基金

月面インフラ構築に資する要素技術

https://fund.jaxa.jp/techlist/theme2_15/

ニュースリリースに関するお問い合わせ先

株式会社セック 広報担当

TEL : 03-5491-4770

お問い合わせフォーム : <https://www.sec.co.jp/ja/contact/contact.html>

以上